

琉球大学学術リポジトリ

[記事](研究発表会要旨)カナダにおけるビール用大麦について

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 南方資源利用技術研究会 公開日: 2014-10-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 島袋, 勝 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002017303

カナダにおけるビール用大麦について

オリオンビール（株）名護工場 高袋 勝

今回、カナダ国際穀物協会主催による研修会に参加する機会に恵まれ、2週間にわたりカナダのビール用大麦の現況をみてきた。その中より特に注目に値する項目を抜粋し、報告する。

今回の研修は北アメリカ大陸の中でも春小麦地帯と呼ばれる穀倉地帯を中心にカナダ4州を視察した。研修内容はカナダ農業の近況説明や穀物の育種、大麦の製麦工程、穀物の輸送手段、醸造学などの講義のあと、それらに関連する施設や農場、工場などを視察した。

アルバータ、サスカチュワン、マニトバの3州はカナダの農耕地の約80%を占め、年に5ヵ月は雪に覆われるという過酷な条件にも関わらず、その平坦で肥沃な土地からは輸出用の高品質な春小麦や大麦、菜種、亜麻の種子などが収穫される。一方、5大湖付近においては野菜やフルーツ、タバコなどが生産されている。

現在カナダには56の醸造所があり、その内27は伝統的な工場で残りの29は比較的小さな工場である。ビールの生産はモルソン及びラバットの2社で寡占状態に有り、それにムースヘッド社を加えると全生産量（225万k l）の96%に相当する。カナダのビールに対する酒税率は高く（53%）、消費量も年々減少傾向に有る。

カナダにおける大麦の育種はオンタリオ州に始まり、初期の頃6条種は当地の過酷な気候条件に適応できなかった2条種に取って代わった。しかし、当地の過酷な気候と肥沃な土地が世界中の醸造技術者の要求に後押しされる形で、次々と新しい品種を生み出し、再び2条種が重要視されだした。醸造技術者達は低蛋白質、低β-グルカンの品質を欲し、その結果カナダ側はその要求に答え、年々その含有量は減りつつある。現在3社の製麦会社があり、5工場で操業が行われている。収穫された大麦の64.2%が麦芽になり、その内訳は46.1%が2条種で、18.1%が6条種である。残りの35.8%の大麦は飼料になる。